TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

# 復活の週末　父よ、彼らをお赦しください

ルカによる福音書 23:23-28

2023 年 4 月 8 日& 9 日
余沢　武　牧師

## I.　初めに

主はよみがえられた！（主は本当によみがえられた！） 主はよみがえられた！（主は本当によみがえられた！） キリストの復活おめでとうございます！
私たちの主であるイエス・キリストの復活を今日、共に祝うことができてとても嬉しく思います。今日は、古いですが、大切な本当にあったあるお話を分かち合いたいと思います。
聖書によると、初めに、神が「全世界」を造られた時、神は「人間」をご自身の形で創造されました。人が神に依り従い、すべての神の創造物を治めて、神の「完全な愛」と「完全な知恵」を反映するためです。
しかし、サタンが蛇の姿で現れ、彼らを惑わしました。彼ら神を信頼することを止め、禁断の実を食べ、罪を犯しました。
神は最初に創られた男女を神の園から追放し、「ケルビム」と「炎の剣」を園の入り口に配置し、彼らが神の園に戻ってこられないようにしました。
神は、ある日、この女の子孫を通して、サタンを倒しその策略と罪と死を滅ぼすために、救い主がやって来ることを約束されました。
のちに、神はこの救い主はアブラハムの子孫とダビデ王の末裔を通してやって来ると約束されました。そして彼を通して、新しい「神の王国」が確立されると。
2000 年前にイエスは宣言されました：「もう神の国は来ている」と。イエスは子ロバに乗ってエルサレムに入城し、すべての人々に、彼が人々を救い神の王国を確立する王メシアである、ということを知らしめました。しかし、人々はイエスを磔にしました。

今日は、実際にどのように起こったのか見ていきましょう。まず、祈りましょう。

## Ⅱ　父よ、彼らをお赦しください

### (1)イエスの祈り

ルカによる福音書 23 章 32 節から 34 節を見てみましょう。
『ほかにも、二人の犯罪人がイエスと一緒に死刑にされるために、引かれて行った。「されこうべ」と呼ばれている所に来ると、そこで人々はイエスを十字架につけた。犯罪人も、一人は右に一人は左に、十字架につけた。その時、イエスは言われた。「父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのか分からないのです。」 人々はくじを引いて、イエスの衣を分け合った。』

先週の月曜日、美樹と私は入院している母を見舞いに群馬に行きました。お昼ご飯を食べた後、病院に向かって歩いていました。青信号を渡っているときに私が前を歩いていて、美樹が私のすぐ後ろを携帯電話で地図を見ながら歩いていました。

私は車が曲がって来たのが見えました。その車は私たちに近づいていましたが、スピードを落としていません。私は運転手を見ましたが、彼は私たちを見ていなかったのです。その時私は、その車に轢かれる、と思いました。車は私たちの間近に迫っていたのです。

本能的に、私はジャンプして腰を前に引きましたが、足がぶつかるかも、と考えていました。しかし何とか難を逃れました。私はとっさに後ろを振りました。そして、美樹がうつぶせに道路に倒れ、動いていないのを見ました。彼女は死んでしまったと思いました。

そして、彼女は動き始めました。最初に彼女が言ったのは「頭が痛い」でした。救急車で病院に運ばれましたが、神様の恵みにより、構造上にも脳自体にも損傷がなく、口の中と、肘、膝の傷とあざだけで済みました。主をたたえます！神様が彼女を守ってくれたのです。

運転手が車から素早く降りてきた時、彼が私たちに害を加えるつもりはなかったと分かっていましたが、私は彼に向って怒鳴ってやりたかったのを、覚えています。想像してください、私はどのように感じたでしょう、もし彼が意図的に私たちを殺そうとしていたとしたら。私は彼の幸せのために祈り、彼に愛を見せていたでしょうか。

それこそ、イエスがここで行った事なのです。人々はイエスを殺そうとしていました。そしてイエスは祈ったのです。「父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのか分からないのです」

その十字架の上で、私たちは、私たちには理解の及ばない、私たちには全く異質の神の愛を見るのです。

(2)人々の反応

35節-43節

『民衆は立って見つめていた。議員たちも、嘲笑って言った。「他人を救ったのだ。神のメシアで、選ばれた者なら、自分を救うがよい。」 兵士たちもイエスに近寄り、酢を差し出しながら侮辱して、言った。「お前がユダヤ人の王なら、自分を救ってみろ。」 イエスの頭の上には、「これはユダヤ人の王」と書いた罪状書きも掲げてあった。はりつけにされた犯罪人の一人が、イエスを罵った。「お前はメシアではないか。自分と我々を救ってみろ。」 すると、もう一人のほうがたしなめた。「お前は神を恐れないのか。同じ刑罰を受けているのに。我々は、自分のやったことの報いを受けているのだから、当然だ。しかし、この方は何も悪いことをしていない。」 そして、「イエスよ、あなたが御国へ行かれるときには、私を思い出してください」と言った。するとイエスは、「よく言っておくが、あなたは今日私と一緒に楽園にいる」と言われた。』

ユダヤ人リーダーは、ユダヤ人を代表して「神のメシアで、選ばれた者なら、自分を救うがよい」と言いました。
兵士たちはユダヤ人でない者たちを代表して、「もしお前がユダヤ人の王なら、自分を救ってみろ」と言いました。
最初の犯罪人は、十字架の上で、「お前はメシアではないか。自分と我々を救ってみろ」と言いました。

ここで皆に共通点があったことに注目してください。彼らは皆、イエスが王メシアになり、神の民を救うために来られたと伝えられているのを認識していました。 彼らすべてが、ユダヤ人もユダヤ人以外の者も皆、イエスをあざ笑い、「もし彼がメシアならば、自分で自分を救うはずだ」と言いました。そうでしょうか？

ケント・ヒューズ氏は、宗教美術の本を見ていた小さな男の子についての話をしてくれました。
イエスが十字架の上で死んでいる絵のところで、その男の子はその絵を長い間じっと見つめていました。そして、悲しい顔をして言いました。「神様がそこにいてくださったなら、こんなことをさせなかったのに」

神はそこにおられました。ご自身を救うためではなく、死に値する者たちを救うために、神は十字架の上におられたのです。

美樹が救急車に乗せられたとき、私も付き添いました。 救急隊員が美樹にぶつかったときの様子を聞いていました。 彼女は、「私たちは交差点を渡っていて、私は夫の後ろを歩いていました。その時、車が私たちの方へ向かってきました。夫はジャンプをしてそこをよけましたが、その車は私にぶつかりました。」と言いました。

隊員は繰り返しました。「つまり、旦那さんがジャンプして逃れたから、車はあなたにぶつかったのですね？」 彼女は「そうです」と答えました。私は思いました「そんな、すごく悪く聞こえるじゃないか。」
でも、それは事実です。私はジャンプをして自分自身を守りました。でも、私は彼女を守らなかったのです。

しかし、イエスはジャンプしませんでした。イエスはそこにとどまり、ぶつかったのです。皮肉なことでした。彼らはイエスを侮辱して、「もし彼がメシアなら、自分で自分を救うはずだ」と言いました。しかし、十字架に留まることで、イエスはご自分がこの世を救うメシアだということを証明したのです。

留まることで、彼が完璧な「神の愛」を持ち、「神の知恵」を全面的に信頼している者であることを示したのです。そしてイエスは祈りました。「父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのか分からないのです」

しかし、私たちはこの「赦し」をどうやって受けることができるのでしょう？
二人の犯罪人の例があります。
彼らが初めてイエスを見た時、二人には何の違いも無かった。二人とも自分の罪により有罪でした。
2 人とも同じ刑罰を受け、イエスの隣で磔にされました。
2 人とも最初はイエスをあざ笑った…他の福音書によると。そして 2 人ともイエスに助けを求めました。
しかし、最後は、一人は「永遠の裁き」に向い、そしてもう一人は「楽園」に向かいました。

一人目の犯罪人は横柄でした。イエスに彼を救うよう要求しました。しかし、彼は自分の問題に対して「手っ取り早い解決」だけが欲しかったと言えるでしょう。神を恐れることなく、罪を告白せず、悔い改めの言葉もなく、赦しを請うこともしませんでした。助けてもらうこと以外、彼は自分の人生にイエスは欲しくなかったのです。

2 人目の犯罪人は違っていました。おそらくイエスの祈りの中に「神の愛」を見たのでしょう。彼は「神への恐れ」に捕らわれていました。自分の罪を認めていました。彼は悔い改め、謙虚にイエスに望みを託して言いました。「イエスよ、あなたが御国へ行かれるときには、私を思い出してください」

ルカによる福音書の中で、誰かがイエスを「イエス」という名前、つまり「神は救う」という意味の名前で

呼んでいるのは、この時だけです。彼はイエスを救い主として受け入れました。
イエスは言いました。「よく言っておくが、あなたは今日私と一緒に楽園にいる」…私たちが神と共にいる「園」のことのことを意味しています。

一人目の犯罪人が自分の命の問題に直面したとき、「間違ったこと」を求めました。そのため、彼は「全て」を逃してしまいました。

私たちはどうでしょうか？結婚生活における問題、経済的な問題、健康に関する問題、仕事での問題、家族の問題、または人間関係における問題に直面したとき、私たちは何を求めるでしょうか？
私たちは手っ取り早い解決法しか求めないでしょうか？そうならば、私たちは「全て」を逃してしまいます。

私たちが謙虚に自分の罪を認め、悔い改め、イエスに望みを託し、イエスと共に歩むこと求めるでしょうか。そうすれば私たちは「全て」の物を手に入れるでしょう。イエスは言うでしょう。「あなたは今日私と一緒に楽園にいる」。「楽園」は今日から始められます。

**(3)垂れ幕が裂ける**

44節-47節
『すでに昼の十二時ごろであった。全地は暗くなり、三時に及んだ。太陽は光を失っていた。神殿の垂れ幕が真ん中から裂けた。イエスは大声で叫ばれた。「父よ、私の霊を御手に委ねます。」こう言って息を引き取られた。百人隊長はこの出来事を見て、「本当に、この人は正しい人だった」と言って、神を崇めた。』

イエスが十字架で死んだ時、神殿の垂れ幕が真ん中から裂けました。

最初の人間が「園」で罪を犯したとき、彼らはそこから追放されたことを思い出してください。神は、ケルビムという名の天使をそこに置かれ、罪びとたちが戻って来られないようにしました。

「エルサレムの神殿」は、そのことを思い起こさせるものでした。「神殿」は、「もっとも聖なる場所」で、神が人と会う場所でした。「エデンの園」によく似ています。しかし、神が与えられた最初のデザインでは、部屋は、「ケルビム」のイメージのカーテンで仕切られていました。

私たちの罪のため、誰もその部屋に入ることは許されませんでした。唯一の例外は、年一度の「贖罪の日」で、その日には、私たちの罪を清めるために、大祭司が部屋に入るために動物の血を携えました。しかし、イエスが十字架上で死なれ、「完璧な生贄」となり、私たちの罪を永遠に取り除いてくださったのです。

そして幕が二つに引き裂かれました。妨げになるものは、もはやありません。ケルビムは取り去られたのです。
「楽園」の門は大きく開いています。私たちは今「園」、「神の臨在」の中に入ることができます。あなたは入りましたか？

もしまだならば、今日は入りましょう。謙虚にあなたの罪を告白し、イエスをあなたの「救い主」として受け入れ、そしてあなたの望みをイエスに置きましょう。すべてを受けとり、そしてここから、そして永遠にイエスと一緒に歩み始めましょう。

三日目の復活の日に、イエスは死からよみがえりました。「サタン」が打ち負かされ、罪が取り除かれ、死が打ち破られ、救いが来たのです。私たちは、今イエスにある命を持つことができます。

これが、私たちがお祝いをする理由です。 復活の日おめでとうございます！

指定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書 協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 2018

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール：cc@tokyobaptist.org
もしくは：https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
（毎週届くメールニュース）
http://t-b-c.us/tbclife

SG レッスンの PDF
https://t-b-c.us/sg1523jp

★クラス 201
クリスチャンとして成長するために
4 月 15 日（土）13:30～17:30
参加条件: クラス 101 を修了した TBC メンバー

★クラス 301
賜物発見クラス
5 月 13 日（土）13:30～17:30
参加条件: クラス 101/201 を修了していること
https://t-b-c.us/classes

オンライン献金
http://t-b-c.us/give

スモールグループ参加申込み
http://t-b-c.us/sgsu

## 奉仕者募集中！

1. 日本語字幕オペレーター
   月 1～各礼拝の時間の日本語字幕のページを矢印キーを押してめくる作業。コンピュータースキルはいりません。
   スキル：英語を聞いて日本語がどこを話しているかわかる程度の英語力

2. 日本語訳字幕作成
   月 1～土曜日 16 時に TBC にて作業します。Mac でプロプレゼンターというソフトで作成しますが、1, 2 回のトレーニングで簡単に覚えられます。作成後、土曜日 19 時の礼拝の日本語訳字幕オペレーターもお願いしています。
   スキル：英語を聞いて日本語がどこを話しているかわかる程度の英語力

3. 週末礼拝メッセージ翻訳
   1 か月半に 1 度くらいのペース
   自宅での作業になります。
   英語のメッセージ原稿を日本語に翻訳します。
   スキル：英語と日本語が堪能な方

*TBC の教会員であることが必須です。

連絡先：hiromik@tokyobaptist.org